

# 企業として存在し続けるには、 求められる事業所であり続けること



みつばウェルビーイング株式会社 代表取締役社長  
介護福祉経営士1級

山内 知樹

## ○当法人の紹介

当社は「みつばケアステーション」を2018年4月に宝塚市で開設、居宅介護支援事業、訪問介護事業、人材育成事業を運営しています。

起業前は、施設介護職から、訪問介護、グループホーム、居宅介護支援事業所、地域包括支援センターの管理者を経て、福祉系財団法人の在宅サービス統括責任者をしていました。同時に、(一社)兵庫県介護支援専門員協会常任理事・宝塚支部長として職能団体や地域のケアマネジャーの組織化に取り組んできました。そのほか、宝塚市内での医療介護福祉の連携の会「宝塚市地域包括ケアシステム研究会」の発足に関わり、代表世話人として現在も携わっています。

そのような経験のなかで、自分の思うようなソーシャルワークを実践できる場を持ちたいと考えるようになり、理念を分かち合える仲間と起業しました。

## ○経営理念と経営方針

モットーは、「住みなれた地域でいつまでもしあわせに」です。専門性の高い、利用者の「幸福」に寄り添える、温かみのある事業所をめざしています。介護保険の理念である人間の尊厳(どの人もかけがえのない価値がある)と自立支援(その人らしい暮らしの実現)を大切に、支援が難しいような利用者の最終的な受け皿となれるよう努めております。

また、職員が仕事にやりがいを感じ、働くこと自体に幸せを感じられ、地域で信頼される事業所をめざし、最終的には、利用者も職員も地域の方もみんなが「幸福」な街づくりに貢献したいと考えています。

## ○理念実現への具体的な取り組み

朝礼やミーティング、研修で会社の理念や方針、ケースの情報共有、専門職としての研鑽を行っています。また、毎朝10分、各自役割を決めて事務所内や周辺道路などの掃除など行い、働く場と仕事に向かう姿勢を整えています。そのほかにもコミュニケーションを取れる場を多く持ち、お互いを認め合える職場環境をつくっています。

## ○今後の展開と予想

要介護者の増加や介護人材の不足、社会保障費の増大のなか、専門職と地域住民が協働し、地域が一体となる仕組みが必須です。そのために事業所として、行政や医療関係者との連携、地域のケアマネジャーや介護職員の育成、地域住民との意見交換を進めていきます。そして、他法人を巻き込みながら、地域住民との協働をリードしていく役割を担っていきたくと考えています。

地域で役割を担い、社会貢献ができる質の高い事業所が今まさに必要とされています。企業として存在し続けるには、求められる事業所であり続けることだと考え、なお一層の努力を続けていく所存です。